

はじめに

本問題集は、「資産形成コンサルタント」資格を目指す方がテキストで学んだ知識の理解・定着を図ることができるように作成したものです。

近年、資産形成の重要性についての認識が高まっています。2024年にはNISAの根本的拡充・恒久化が図られる等、制度面の見直しが進められています。また、国民の金融リテラシーの向上を図るための金融経済教育への取り組みにもこれまで以上に力が入れています。

こうした中、金融機関では、資産形成・運用に関する顧客からの相談に適切に対応できる人材が求められています。そうした人材は、顧客一人ひとりのライフプラン上のゴールの設定を手助けし、設定したゴールの実現に資するポートフォリオ提案をするための基礎を身に付けていることが必要です。「資産形成コンサルタント」資格は、そうした知識を身に付けていることを認定するものです。

テキスト「資産形成コンサルタント」で一通りの学習を終えたら、本書の問題を解くことをお勧めします。理解が深まり、知識が定着したという自信がつかいたら、「資産形成コンサルタント」資格の受験を通じて、是非ご自分の力を確認してみてください。

「貯蓄から投資へ」の流れの中で、より多くの方々が「資産形成コンサルタント」資格を取得し、資産形成・運用に関する顧客からの相談への対応力をますますレベルアップするよう、本書が活用されることを願っています。

2024年2月

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

目次

はじめに	i
目次	ii
本書の利用に当たって	v

第1章 顧客と信頼関係を築く

1

(1) 顧客との接し方の基本	2
(2) 行動経済学と資産運用	4
(3) 信任義務(フィデューシャリー・デューティー)	6
(4) 顧客本位の業務運営に関する原則	8

第2章 新しい資産運用のあり方

11

(1) 適合性の原則とゴールベース資産管理	12
(2) ゴールベース資産管理の概念	14
(3) ゴールの設定	16
(4) 実現シナリオの設定	18
(5) ファンドラップ	20
(6) 長期・積立・分散投資	22

第3章 資産運用の基本的な枠組み

25

(1) アセット・アロケーション	26
(2) ライフステージ別資産管理	28
(3) NISA口座	30
(4) iDeCo	32
(5) 特定口座と一般口座	34
(6) 特定口座内での取引	36

第4章 資産運用市場

39

(1) 金融市場	40
(2) 株式の発行市場	42
(3) 債券の発行と取引の仕組み	44
(4) 株式取引の仕組み	46

第5章 資産運用の基本	49
(1) リターンとリスク	50
(2) リターンの実績表	52
(3) 割引率と現在価値	54
(4) 債券の理論価格とリスクプレミアム	56
(5) 72の法則	58
(6) 資産の実質価値とインフレーション	60
第6章 資産運用における財務諸表の活用	63
(1) 企業会計のルール	64
(2) 財務諸表	66
(3) 営業活動によるキャッシュフロー	68
(4) 安全性に関する指標	70
(5) デュポン方式による収益性分析	72
(6) 成長性に関する指標	74
第7章 ポートフォリオ理論	77
(1) ポートフォリオとリスク	78
(2) 投資家のリスクに対する態度と選択	80
(3) リスク分散と相関関係	82
(4) 分散投資によるリスク削減効果	84
(5) 効率的フロンティア	86
(6) 最適ポートフォリオ	88
第8章 資本資産評価モデル(CAPM)	91
(1) CAPMの概要	92
(2) 個別株式の期待リターンと β (ベータ)	94
(3) CAPMの実務への応用	96
(4) 運用のパフォーマンス評価	98
第9章 株式投資	101
(1) ROEと資本コスト	102
(2) 株式の投資尺度とその意味	104
(3) 定額配当割引モデルの割引率	106
(4) 配当割引モデルによる理論株価	108

第10章 債券投資	111
(1) 債券の価格	112
(2) 利付債の理論価格	114
(3) 所有期間利回り	116
(4) イールドカーブ	118
(5) デュレーション	120
(6) 債券投資のリスク	122
第11章 外国証券投資	125
(1) 外国証券投資の意義	126
(2) 外国証券投資と為替レート	128
(3) 外国証券投資の運用利回り	130
(4) 新興国投資	132
第12章 投資信託	135
(1) 投資信託の仕組み	136
(2) 運用商品の選択	138
(3) 不動産投資信託(J-REIT)と上場投資信託(ETF)	140
(4) インデックス・ファンドとアクティブ・ファンド	142
(5) 投資信託の収益率評価	144
(6) ESG投資	146
(7) デリバティブ	148
(8) オルタナティブ投資	150
ケース・スタディ	153
(1) ポートフォリオのリバランス提案	154
(2) 投資信託とドルコスト平均法	158
(3) 投資信託の基準価額の推移	162
(4) 理論株価の計算	166
(5) 社債投資と発行条件	170
(6) ポートフォリオ効果	174
(7) 投資信託の収益率評価手法	178
(8) 投資信託の分配金と元本の計算	182